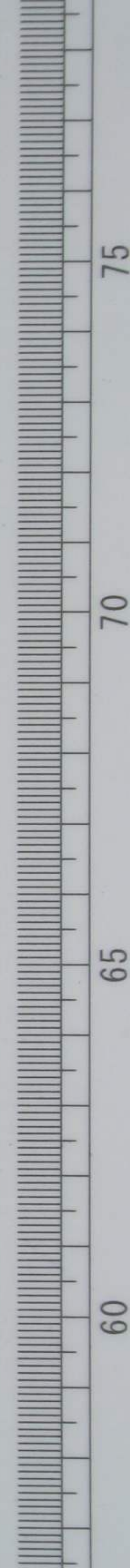


LA BONNE CHANSON.













LA BONNE CHANSON.

山  
村  
暮  
鳥



線  
條

慈姑くらみに花はなが白しろく咲さき、  
而さうしてそれそれが懶もろげな玻がら璃すの花はな瓶びんに  
傾かたむくこと、  
薄暮はくぼの通とほりが光ひかります。

混雜こんざつを斜陽ゆふひが舐なめて十字路じゅうじろの角かどにポストの影かげを  
消けす時とき



「記憶のやうな色が撒ります。

あゝ凡てがニコチンの毒を含みます。

海岸の空と、

女の肉と、

而して私が柳にかくれて見やうと

思ふ、

夏のうしろ姿は！

## 影

葬送の鉦が鳴ります。

ぱつたりと風が止み、

あれ！ 色彩も音響もみんなを静かな地平に

かくれて、

大空の夢には月が浮きました。

荒廢の園から心の行列の蟻が



正午を急ぎます。

『墓は何方です？』

葬送の鉦が鳴ります。

あゝ膝の枕のやはらかさ……

LONGING.

黒光りの線が一條

あゝ黄ばんだ麥の畑から夕立の彼方の  
都會へ走ります。

而すると燕の群がおどろいて、  
白楊の緑にかくれます。

あゝ黄ばんだ麥の畑からあこがれの私の心が



走ります、

南へ、南へ……

薔薇色の空によく似たお前の眸へ……

### 睡眠の時

月光の銀が樹立のうへに散り、

木々の梢から水晶の

盞が光ると、

緑りの夢がおどろきます。

『あゝFさん！』

柔かいこゝろを抱いて古沼のほとりに草を



敷きまします。

陰影に……

柳の微風が泣いてます。

いまは睡眠の時なのです。

空が大きな手をあげてしづかにお前の胸を撫でたらば、

譬へば虹の消えたあとにかゝやく

星のやうかその眼に、

私を寫してくれるでせう？

## 疲 勞

明日もかうした嫌な日でせう？

地下室に近い庖厨から濕つぼい色と味との

私語が、

もれて胃壁に沁込みます。

音楽的を暗い雨！

何處かで打たせた波の鼓動が



私に夢を要求します。

あゝ私は綿のやうですもの……

明治四十三年七月卅日印刷  
明治四十三年八月一日發行

(實費金參錢)  
(郵税金貳錢)

著者 山村暮鳥

仙臺市定禪寺通櫓町五番地

印刷所 早川活版所

仙臺市片平丁(電話八六〇)

印刷人 千葉新治

仙臺市片平丁二十五番地

發行所 松榮堂書店

仙臺市大町四丁目(電話五三三)



